


グループホーム まごころ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		開設時に職員全員で作成。「優しい心を大切に、温かい家族になります」「穏やかでゆったりとした日々を共に歩みます」を理念にこめて、地域との連携を図っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		職員全員が理念を共有し、理念の実践に向けて、毎日朝礼時に唱和を行っている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域の行事等には、参加をさせていただき、地域の方々に理解していただくよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣の公園に散歩に行った時は、ご近所の方が話かけていただいたり、ホームの庭の「隼人瓜」がたくさん出来た時等は、「少し分けてください」と言われたり、野菜も持ってきていただくことがある。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		長畑区の盆踊りに利用者全員が参加したり、公民館での交流会に声をかけていただき、カラオケやゲームに参加している。

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	できていない。		運営推進会議時に、区長さんや民生委員の方に、区の清掃等に参加させてほしいと要望を伝えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の結果報告を参考に、悪い点を把握し、改善に努める。		職員全員が、今後の評価内容を生かせるよう、取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、貴重な意見・アドバイスをいただいている。		今年度は、事業所の都合で1回不足したことで、新型インフルエンザ感染予防のため、全員の家族の参加ができなかったが、今後は、多くの参加と意見をいただけるよう努力する。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当課へ更新手続きのみ行っている。		今後、連絡協議会等に参加し、サービスの質の向上を図っていく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットは準備している。必要な方への支援の準備は行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設している介護老人保健施設と合同の勉強会に参加、学んだ事を全員が理解するよう働きかけている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族は、納得していただけるものの、本人はよくわからなかったり、納得されていない時もあるが、納得いただけるよう説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」を設置している。苦情相談窓口については、重要事項説明に入れている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、キーパーソンの家族へ、日々の暮らし、体重、体温、血圧を記入した手紙をお渡ししている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「ご意見箱」の設置や、面会時等にできるだけ、お話をしよう心がけている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回のミーティングを行っている。事務長の参加もあり、要望や提案を出し、反映できている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>要望には極力対応している。行事計画や入浴時は、ゆとりを持った人員配置を行い、安全性に気を付けている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>8人の介護職員のうち、4人が1年毎の契約職員であり、パートや派遣という「職員満足」の観点からは、満たされる環境とはいえない。利用者へのダメージ抑制の対応策は課題である。</p>		

グループホーム まごころ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>充分とはいえないが、職員の与えられた環境の中で、利用者が満足できるよう、スキルアップを行っている。</p>	<p>職員が定着できる職場(働きやすい条件や環境)作りを検討していく。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>研修に参加している。</p>	
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2ヶ月に1回、併設の介護老人保健施設で「勉強会」に参加。外部研修に自主的に参加している。</p>	
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>京築地区のグループホーム連絡協議会に管理者ができるだけ出席するようにしている。</p>	
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>認知症の介護に従事しているにも関わらず、ストレス軽減のための工夫や環境づくりの配慮がなされていない。</p>	

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の努力は認めてくれていると思うが、職員が向上心を持って働ける工夫や努力がみられない。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族と入居の申込に来られた時は、ご家族が代弁されることが多い。入居日が決まった時は、入院先等へでかけ、1～2回は面談を行っている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前は申込の手続きがほとんどである。入居後によく面会に見え、職員ともお話をされ、情報を得ている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況に応じた対応ができるよう、在宅介護支援センター、ケアマネジャー、医療ソーシャルワーカーと連携をとっている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の際には、ホームに少しずつ馴染んでいただくよう、言葉かけ対応を行っている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々、家族としての役割を心がけている。調理時の野菜の皮むき、大根おろし等、昔話を交えて取り組んでいる。</p>		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内でのイベント(運動会、クリスマス会)時には、8割の家族が参加していただいている。食事(バイキング料理)とともに摂る等、利用者、家族、職員が喜怒哀楽を共にしている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族や知人、お友達の面会時には、リビングでお話したり、居室でお話されたり、希望にそった対応をしている。面会が少ない利用者は月1度の電話がかかってくるので、20分くらいお話をしてもらっている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の家族が面会に来た時、他の利用者(男性)の将棋の相手を、2時間ほどしていただく等、利用者も楽しみに待たれている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った人同士でも、小競合いがある時がある。その時々々の状況に応じた対応を行い、心地よく過ごしていただけるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	この一年間退所された方たち4名は、身体的に重度となり、入院となられた。この4名に関しては関係を断ち切っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	将棋の好きな方、五目並べの好きな方と意向の把握ができる方は、希望に沿った対応をしている。家族やお友達の面会時に、過去の生活履歴の中で、得意としている事の情報を得て、日々の生活の中に取り入れている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人と話す以外にも、家族や担当のケアマネージャー、在宅サービス事業者、医療ソーシャルワーカー、在宅介護支援センター等、入居前に関わりのあった人や事業所等と連絡相談し、得た情報を基にフェイスシートを作成し、職員へ周知を図っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	主治医の診療情報提供書を参考にして、併設の老健の理学療法士からアドバイスを受け、その人にあった、リハビリを実施し、職員がその人の有する能力を引き出せるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必要に応じて利用者の課題とケアのあり方について、本人、主治医、家族、関係者と話し合い、介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行って記録し、対応できない変化がある時は、家族、必要な関係者と話し合い、新たな計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践を個別の記録に記入し、ミーティングで情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎、家族の結婚、米寿の祝い等、本人、家族の要望に応じて、柔軟な支援をしている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域担当の民生委員の方が、地域の行事の声かけはもちろん、運営推進委員会以外にも、野菜等を持っていただき、声をかけていただいている。		状況に応じて、ボランティアの方にもかかわっていただけるよう働きかけていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、行っていくつもりである。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの社会福祉士1名に、運営推進会議の委員をしていただいているが、その他は特に接点がない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、家族、本人の希望する医療機関を利用している。必要であれば、受診の送迎や付添を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が数力所ある。かかりつけの個人病院の先生が、相談や往診等協力していただいている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職が非常勤ではあるが、対応している。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は、医療ソーシャルワーカーや看護師と情報交換を行っている。面会に行くなど、早期退院できるよう努めている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>当ホームでは、終末期ケアはしない方針であるが、老衰により「みどり」となった場合の医師や家族への連絡、職員の対応等、ミーティングで全員が方針を共有している。医師との連絡体制はとれている。</p>		<p>家族へは、3月の運営推進委員会時、集まっていたき、話し合っていく予定である。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>体調の変化時には、かかりつけ医や看護師と連携をとり、対応している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>話し合い、情報交換を行っている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>言葉かけについては、全員「さん」づけで呼んでいるが、おひとり「先生」とお呼びする時もある。個人記録は、施錠できるところに保管している。</p>		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の生活の中で、自ら思いを表に出すことはない。不穏時に、思いや希望を訴えられることがある。ゆっくり話を聞いて、納得いくまでお話をする。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はしていないが、ほぼ職員側の働きかけで、生活が流れることが多い。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	受診時は、外出着を選択していただいたり、小物を使って、おしゃれを心がけている。理容は、併設の老健にくる理容サービスを利用している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みについては、入居前に情報を得て反映したり、日常の会話や食事の中で、嗜好を聞き参考にしている。野菜の皮むき、干し柿を全員で作ったり、男性が大根おろしは、「私がする」と名乗り出られる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこは提供していないが、ティータイム時、「コーヒー」「お茶」「ココア」「牛乳」「生姜湯」等、その時飲みたい物を選んでいただいている。(一人一人希望にそったものを提供している)		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表に記入、チェックして排泄パターンの把握に努めている。紙パンツ・パッド使用の方が、トレーニングパンツに変える等、状況に応じて、おむつの使用を減らすよう努力している。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できていない。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は、自由にしていただいている。朝は一人で起きられる方は、朝食前に起きてこられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内の朝の掃除は、掃除機をかける人、椅子を拭く人、トレーを拭く人、洗濯物をたたむ等役割がある。地域の集いに参加して、得意なカラオケを披露された。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人がお金を使うことは、ほとんどない。初詣に出かけた際、お賽銭をそれぞれ持っていただき、お参りされた。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	戸外に出かける機会は作るようにしているが、個々のニーズに合わせてまでには至っていない。新型インフルエンザの感染予防のため、お出かけを例年に比べ控えている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出かける時は全員で出かけるが、家族と米寿の祝い等、家族旅行や食事に出かけられることもある。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年末に、お正月に着くように3名の方が、自筆で年賀状を出された。本人の希望があれば、電話をかけていただいている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室で過ごされたり、共有の場所で過ごされたり、自由にいただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、行っていない。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の出入り口のドアには鍵はついていない。(夜間、ご本人がたんす等で、出入りできないようにされる。)窓は夜間以外は施錠しない。玄関は施錠している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間、居室へ入る時は、声かけをするか、ロックをする。ほとんどの時間をリビングで過ごされる方が多い。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針やはさみ、薬品等は、鍵のかかる場所もしくは、目につかない場所に保管管理している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	開設時、転倒、窒息、誤飲、誤嚥等については、研修を行った。離設の危険性のある方は、社会福祉協議会が窓口の「徘徊SOSネットワーク」に登録し、警察他様々な協力者へ連絡がまわるようにしている。		防止方法については、研修を重ねる必要がある。

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年12月より全職員、交替で救急救命の研修を受けている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、夜間火災想定避難訓練は行ったが、近隣の方への働きかけは行っていない。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時に、起こりうるリスクを説明している。入居後も身体および精神状態等の変化についても、緊急時はもとより、日々の生活の中でも、家族と話し合いを持っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気づいた事は、小さな事でも口頭および申し送りノート、業務日誌に記録を残し、職員へ伝わるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者各自の「薬の仕訳表」を、職員の目につくところに貼っている。服薬時は、利用者の名前を呼び、一人に1人が対応し、誤薬しないよう心がけている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を利用し、便秘が続く時は、看護師が排便の処置を行っている。毎朝、体操を行ったり、リハビリをする等、体を動かすように努めている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、マウスケアを行っている。自分では充分できない方は、職員がフォローしている。義歯の方は、水曜日、日曜日に義歯洗浄剤を使用している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分量のチェックをしている。1日1000cc以上を目安にしている。水分量が少ない方は、声かけをして、摂取を促している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	職員、利用者とも手洗い後は、ペーパータオルで拭いている。外出時は、マスクを使用（インフルエンザ感染予防）帰宅後は、うがい、手洗いを励行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、使用のたびに乾燥機で充分乾燥させている。まな板、包丁、布巾等は、一日一回熱湯と漂白剤を希釈して除菌している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉は施錠しているが、簡単に開けられる。玄関は外からは自由に入れる。玄関先には、季節の花を園芸の係が工夫して、温かみのある雰囲気作りをしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、ダイニングの南と西に窓があり、解放感が臨める。玄関には手作りの飾り等をおき、季節感をだしている。		

グループホーム まごころ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の空間の中には、独りになれる場所は少ない。玄関前のベンチやリビングのソファぐらいである。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具は、馴染みの物を持ってきていただいている。居室の壁には、家族との写真等を飾っている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムになっている。他に、朝の掃除の時は、できるだけ窓を開け、外気を取り入れている。室温は本人の好みや体調等考慮し調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく手すりをつけている。各室とトイレの出入り口を、直線の廊下沿いに設け、ダイニングから見通せ、遠くからでも見守りできるつくりになっている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレは「便所」と大きく貼り紙をしている。居室は、各室ネームプレートにフルネームで表記している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏場は菜園での野菜(じゃがいも、ナス、ピーマン、スイカ、スティックブロッコリー、パセリ、隼人瓜)の収穫、水撒き等を楽しんでいただいた。散歩の際、併設の老健やデイサービスの庭を利用している。		

グループホーム まごころ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム まごころ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者が毎日笑顔で過ごせるよう、暗い顔や思い悩んでいる時は、原因を究明し、解決に向け笑顔がでるまで対応している。
- ・家族とのつながりを大切にしてほしいため、イベント時には一緒に食事を提供している。
- ・個別の生活リハビリに取り組んで、転倒防止に努めている。
- ・できることを見つけ、能力に応じて、家事の手伝いをしていただいている。